

『全世界紀行 民族と歴史、そして冒険』を出版して

(ナカニシヤ出版、2003年2月)

甲南高等学校教諭 南 里 章 二

今年(2003年)の2月中旬、ようやく拙著『全世界紀行 民族と歴史、そして冒険』の出版にこぎつけることが出来ました。私の旅についてよく御存じの方からは、20年以上前より「何故本を出さないのか」というご叱咤を何度もいただけてきました。また本の出版が決して容易な事ではなかったことも多くの皆様が御存じのことでしょう。確かに、私たちの若い頃には、わずかな海外体験を基に書かれた本がよく出版され、結構読まれていたようです。しかし現在、年間の海外への旅行者数が軽く1千万人を超えるという、30年前には考えられなかったような時代の変化の下、「旅行記」の類の本は星の数ほど出版され、本好きの人たちには食傷気味としかいえないような状況になってしまいました。そして誰もが本を読むより自分自身がその旅を体験したい、そして体験したことを人に伝えたい、出来れば文章の形で、または写真集の形で出版してみたいという思いが高まり、またそれが可能な時代にもなってきました。

ただし出版業界の方は、不況も重なり、食傷気味の本を出版するというリスクを犯したくないので、当然「旅行記」の類の本の出版は極力控えるようになりました。ですから「旅行記」を出版したいという人の思いは、高級車一台分ぐらいの費用を自己負担できるという一部の人たちを除いて、その実現の可能性は昔よりはるかにせぼめられてしまいました。何故もっと早く本の出版を試みなかったのか悔やみもしました。しかし若い頃の僅かな海外体験を本にしても、たいしたこと書けないし、読む側の人たちの期待を満たすことも出来ません。何よりも出版に際しての費用をまかなうことが出来ないのが最大のネックでした。

それならば、私自身の思いにまかせて、次々に新しい旅に費用をつぎ込もう、そして人に語れる体験を積み重ねていけば、そのうちにいいものを書ける条件が整うだろうと考えてきたわけです。

拙著のまえがきにも記しましたが、この30年間の前半の15年で私が訪れた国は100カ国を超えてしまいました。しかしこの時点では世界全ての独立国の旅は夢のまた夢でした。30年前には、たった50カ国、60カ国の旅でも十分に本になっていたのに、この時点で本の出版を考えてはみましたが、それよりも未だ訪れていない国が70カ国以上もあるということが重く頭にのしかかり、何年かかるかわからないけれども全独

立国訪問をめざして出来るだけやってみようという思いのほうが強まり、ますます出版は遠ざかることになってしまいました。

その後、1991年のソ連の崩壊は独立国を一気に14カ国も増やし、アフリカにも、ナミビア、エリトリアが誕生し、ミクロネシアでもパラオが独立国家になるなど、全世界の独立国家は増える一方で、そのクリアーもまた遠ざかる一方でした。

しかし毎年夏休みを待ち、辛抱よく未訪問の国を一つ一つ訪ねていく旅を続け、ようやく昨年(2002年)夏、最近(2002年5月)独立した、私にとっては最後の国、東チモールを旅し終えて現時点で世界全ての独立国192カ国訪問を達成することが出来ました。その前年(2001年)にはアフリカ大陸のなかで、訪れていなかった最東端のソマリアと南のアンゴラ、中央部の赤道ギニア、最西端のカーボ・ヴェルデを次々旅せねばならないという無理も余儀なくされてしまいました。

本の執筆に関しては、今まで書き溜めたものを基に、30年という長いタイムスケールの中で、現時点に立って見直し、書き改めたものが半分、あと半分は書き下ろしという形で、2001年12月より2002年6月まで、約半年で書き上げ、2002年夏の旅の前後より出版社探しを始めました。大手の出版社は「売れない本」と判断したのか全く関心を示してはくれませんでした。しかし私が中学時代以来親しんできた山登りの先輩(甲南山岳会)の方々のご協力を得て、捜し当てたのが京大正門前にあるナカニシヤ出版という、哲学や心理学、そして登山に関する本を多数出版している小さな出版社でした。拙著の内容を高く評価してくれたナカニシヤ出版は直ぐに協力を申し出てくれました。

3月半ばに催された拙著の出版記念会では多くの教え子や、同僚の先生方の多大な御協力を得て、また各新聞社(朝日、毎日、読売、神戸etc.)が紹介記事を掲載、またいくつかのラジオ、テレビ番組にも取り上げていただき、初版は完売。現在第2版が全国の書店に出回っている段階です。

おかげさまでやっと「何故本を出さないのか」と云う皆様方のお声に応えることが出来たわけです。

本の内容についてはすでに各方面で詳しく紹介されているので重複を避け、今回は出版をめぐっての話でお茶を濁させていただきます。